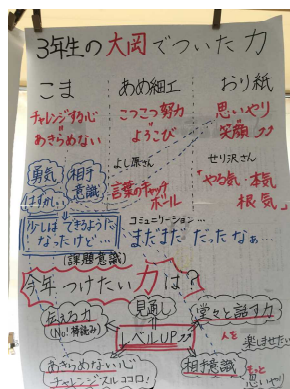


令和元年度大岡小学校 4-2 クラスの学びを発信します！

聞いて楽しめ、見て笑え 目指せ！落語の天才！！

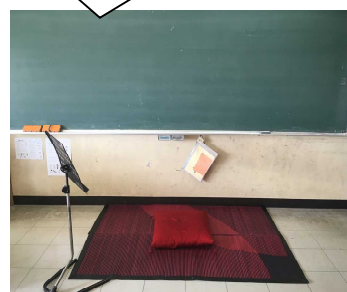
4年生になり、3年生の大岡の時間を振り返って話し合うと、独楽、飴細工、折り紙という材と向き合い、技術を高めたり地域の人々との関わりをもったりしながら、諦めないうでチャレンジする心、コツコツ努力を重ねることの大切さ、思いやりの心をもって人と接することのよさなどについて学んだことを心に刻んでいました。その上で今年度、どんなことをがんばりたいかを話し合うと、昨年度達成できなかった「堂々と表現すること。」「その上でもっと人を楽しませたい。」と話す児童がたくさんいました。この思いを実現するためには、どのようなことができるかを考える中で、「落語」が候補に挙がりました。児童は落語を候補に挙げたものの、実際はどのようなものかイメージがもてないでいました。そこで、絵書家筆之輔さんに落語を一席見せてもらいました。実際に落語を見た児童は、「面白かった。」という感想をもつとともに、「自分も話せるようになりたい。」「師匠に近づきたい。」という願いをもつようになりました。

師匠の落語を真剣に見て、真似ができるようを探します。



今年は、こんなことを頑張りたい！

教室にある高座で練習&発表しています！



当面の目標を「一人一席できるようになる！」と決め、練習を開始しました。慣れない言葉や長い噺…。なかなかうまくいきません。「長くて覚えられないから、練習している噺を変えようかな…。」そんな時、一人の友達がみんなの前で一席披露しました。題は『平林』。楽しそうに落語を話す友達を見て、自分たちも自然と笑顔に。子どもたちの「自分で一席話せるようになりたい！」という熱が再燃し、「4-2 寄席を開きたい。」という願いが生まれました。

実際に4-2 寄席を開き、次に何を目標するか話し合ってみると、『声』『顔』『体』『心』の4つに上達のこつがあるのでは？』と考え、この4点から自分の頑張りポイントを設定し、堂々と話し、みんなを笑顔にできるような落語を追究しようとしています。